おちほ

第77号　平成25年12月20日　発行　社会福祉法人　椎の木会　落穂寮　発行者　太田正則
TEL 0748－77－2299　FAX 0748－77－5588　http://ochiho.noor.jp/

多目的学習棟　完成！

▲事務所

▲地域交流室

相談室▲

▲多目的学習室

『生まれ変わりました!!』

今年の始めから建て替え工事等を進めておりましたが、去る八月末に無事完成し、引き渡しとなりました。

旧事務所と旧体育館があった場所にお目見えしたのは、名前も新たに『多目的学習棟』です。

使い始めて三ヶ月が経ちますが、まだまだ新築らしい香りが漂っています。しかし、日常では沢山の利用者さんが日中の活動等で利用されており、お客様気分で緊張しながら使い始めた最初の頃に比べると、生活の場の一部として馴染んでおられます。

利用者・職員一同、新しい建物に愛着を持ち、大切に使用していこうと思います。

完成を祝って、落穂寮に関係ある人、ない人問わず、地域の方々の交流の場にぜひ利用していただきたいと思い、お披露目会を行ないました。その会の模様は裏表紙へつづく！

袖振山で

理事長　山下陽一

「あの町で」

二〇一一年の三月半ば金曜の午後、大地が激しく揺れて、水平線の彼方から巨大なブルドーザーのような波が低い地面にあった町や港に強引に伸し掛かり、人形で遊んでいた幼児から孫を待っていた老人まで一気にさらわれてしまいました。新聞の取材記者は海が引くとき狭いフルイ状のところに骸（むくろ）が折り重なっているむごい光景に茫然自失して配信記事が書けなかったそうです。

その大震災の復興に祈りをこめて八人の作曲家たちによるシンフォニーが作曲され「魂の歌」として発表されました。そのなかで、重松清作の『あの町で』（原作とは少し違います）が役所広司さんにより朗読されました。

重松 清著『きみの町で』（朝日出版社 二〇一三年）は、あの大震災で両親兄弟を亡くした子どもの話がいくつか書かれています。おそらく一つひとつは別の事実を寄せ集め構成して一つのストーリーに仕立てたものでしょう。児童書なのですが一時に家族をすべて失った少年の話を朗読するたびに胸ひしぐ想いです。

あの町で少年は巨大な波のブルドーザーのために、両親と兄弟を一度に失いました。阿鼻叫喚の有様を目の当たりにした独りぼっちの少年は避難所の親切な誰かの世話になりながら消息の連絡を待っていました。

少年は毎日町と海が見わたせる「袖振山（そでふりやま）」という小高い丘に昇りました。その丘は海で遭難した漁師だけでなく、水平線のはるか彼方へと旅立ってしまったひとに、もう一度だけ会いたいと願って袖を振って魂を招く、いわば死者と出会うための場所だったのです。

少年はそこで沖にむかって背筋を伸ばし手を振るようになりました。「オーイ、オーイ」と声を押し殺して親や兄弟を呼び続けるのです。

やがて消息を得てこの少年の親せきの家に生活を移すことになりました。

避難所での最後の夜、少年はもうこの丘に立つことはないだろう、とこっそり抜け出し、朝まで少し間のある丘に登りました。

少年は朝焼けを前にして薄暗い海に向かって両手を大きく振りました。声を押し殺して、「オーイ、オーイ、オーイ」と行方不明の両親を、兄弟を、そして楽しかったときに呼びかけるのです。一人ぼっちになって不安にわななく思いがこもっていました。それはものがなしい響きになっていきました。自分を守ってくれ、いつも安心して帰れる確かな場所はすさまじい自然の暴圧にこっぱ微塵に破壊されてしまったのです。

この少年の楽しかった一切の過去の自分に別れを告げなければならない張り裂ける思いに、すべての読者は心の奥底から湧きあがる涙を抑えることができないのではないでしょうか。この少年の気持ちは被災したすべての人たちの思いと重なっているでしょう。

この悲しみの極みから僅かでも救いの道を見つけることができないでしょうか。この上ない悲しみを癒し生きていく力に変えることはできないものでしょうか。

水平線の彼方にある世界

少年が丘から見下ろせるのは破壊された町と水平線までの海で、こちら側の世界ですが、水平線の彼方は見えないけれど死んで往く別の世界がきっとあるに違いない。その水平線の彼方の世界と繋がることができたらこの少年に少しばかりの激励と勇気を贈ることができるのではないか、と思うのです。

平原綾香さんの歌『mama（ママ）』（作曲 坂本昌之）はこの少年に少しばかりの癒しと励ましになるのではないでしょうか。『ママ』は水平線の彼方の世界からずっと見守っていてくれるというのです。

悲しいときはいつでも　私を呼んで
いつだって　遠い空の上から　見守ることしかできないけれど・・・
この手であなたを抱きしめたい・・・
あなたのこと　どんな時も
見てるのよ　・・・
あなたの水平線から　何が見える
大きな夢が私の青空に描いた　白い
自由を見上げてみて・・・

水平線の彼方の世界の空はこちらから見える空なのです。その空に思いを込めて繋がりあうことができる、と平原綾香さんは祈りを込めて歌っています。

水平線には必ず水平線の彼方があります。その彼方の世界は見えないけれども隠れている世界がある。いつも私たちはあらわな世界に眼を奪われて見えない彼方があることを忘れているのを『ママ』は教えているのではないでしょうか。

水平線の彼方とつながる機会は、静寂のなかに居て心の奥底にあるセンサーに染み入って初めて呼び覚まされるというとき。そんなとき水平線の手前の見える世界と水平線の彼方のみえない世界をつなげることができる、あえてたとえるなら、物見遊山で神社に行く人ではなく、信仰の人は本殿参拝に先立ち、手を洗い口を漱ぐことにより見えない神域の世界の人となるようなことでしょうか。

あの独りぼっちの少年の場合は袖振山で「オーイ、オーイ」と声をしのばせて沖に向かって呼びかけ手を振ることにあたるでしょう。

このように水平線の彼方の世界に目覚めることができたなら日々の日常をもっと深みのある生き方ができるのではないかと思うのです。

（二〇一三・一一・一四）

「そだつ」

寮長　太田正則

年三回この「おちほ」は、だいたい夏、秋、初春頃に発刊されます。ここ何回かの冒頭は自然災害のことに触れていますが、今回もやはりその話題から始まることに将来の不安を感じます。この夏の猛暑に続き台風による大雨とそれに伴う土砂災害。滋賀県の各地でも被害が発生しました。これまでの自然災害で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方の一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、その自然災害によって多くの作物が生産者の思いも虚しく水没や流失という被害に遭いました。今年の我が家の近江米（日本晴）も総倒れでした。しかしそれは猛暑や台風の影響ではありません。集落営農の方が間違って我が家の田に肥料を蒔いてしまわれたことによる過剰施肥の結果でした。農作物を上手く育てるコツは作物の種類に合わせた施肥の量・時期そして根の張り具合に合わせた場所です。過剰施肥は害虫の発生を招き、根を腐らせてうまく育ちません。肥料を心持ち少なめにして根張りを良くすることで大きく、美味しく育ちます。

作物と一緒にしては叱られるかもしれませんが、子育てについても同じようなことが言えると思います。過保護に育てては社会の荒波に立ち向かえない（昔よく聞いたフレーズかな）、厳しく育てて強くたくましい人になって欲しいと、甘やかさずに育てる事が将来に役立つと言われていました。では、知的ハンディを持つ人についてはどうなのでしょうか。障がいが重くなればなるほど時と場所と目的を使い分けて行動することが難しくなりますので、行儀作法などの躾と言われるものについてはいつどの場面でも同じレベルのものを要求しなければ獲得につながりません。同じことを何度も何度も繰り返すことで習慣化されて身につくのです。そして一旦身に付いたものが失われることはほとんどありません。児童施設の時代は、保護者に代わって養育し、社会に出ていった時に人に好かれるように、わがままを言って周囲を困らせないようにとの想いで関わっていました。しかし、この「習慣化する」「身に付いたものは失われない」という考えを躾（マナー）以外についても当てはめてしまうことで、「育ち」を妨げてしまうことが多くあったと思います。集団生活の中での個人的要望は、ともすると「わがまま」として片付けられることになります。「あなただけにその要望を叶えることはできない」「一度その要望に応えることで、それがクセになってしまい、当たり前になると困る」などの理由から要望が受け入れられず、常に一番厳しい水準で判断し、それを強いてしまう。この対応は、将来自分で自分の価値観を作り上げていくことができる力を持つ人には大切な「我慢」を覚える大切な機会だと思いますが、重度の知的ハンディを持つ人には適切な対応ではありませんでした（特に幼い頃から施設生活を強いられた人には）。満たされない感情が常にどこかに張り付いていて、剥したくても剥がせない、いっぱいにしたくても溢れるところまで行かない、それだけに何かを求め続けてしまう感情から抜け出せずに、同じところをぐるぐると回っている、彼らの身をそんな状況に置いてしまって来たのではないかと思います。支援に正解はありませんが、明らかに間違っていることはあります。ただ、明らかでない限りは間違いではありません。五年後、「あ～あれで良かったんだ」と思える日が来るのか、はたまた十年後？二十年後？いやいやそもそもそう思える日が来るのか？彼らの思いをどれだけ受け止めることができるのか、言葉を使わない彼らに試されているのは、私たちです。

以前、ある大学の先生のゼミ生が見学研修にこられました。質問の中に「ストレス解消はなんですか」というものがありました。その時はうまく答えられなかったのですが、実際何でストレスを解消しているのかよく考えると、今はお米や野菜を作ることかなと思っています。それのどこが解消になるのかというと、成長を見ることができるからです。種を蒔いたあと、三日目ぐらいから芽を出し、ぐんぐん大きくなっていく。土寄せをして追い肥をするとまたぐんと伸びる。毎年試行錯誤ですがよく観察して、適切な時期に手を入れると必ず答えてくれます。自分が携わっているもの、それが人でもモノでも「育ち」を見て実感できるということが、達成感を得られとても嬉しく、ストレス解消に繋がっています。それは、その人やモノの成長とともに自分の成長も感じることができるからなのだと思います。共に育つことができる、それがこの仕事の醍醐味だと思います。

この「育ち」を落穂寮の利用者さんに置き換えると、やはり「笑顔」しかありません。一人一人の中の一つ一つの思いをしっかりと受け止め、その時その時にしっかりと応える。今は結果が見られなくても、「明日の笑顔につながる」ことを信じて、またそこに責任を持って支援することを、もう一度私たち職員皆で心がけたいと思っています。

2013 七夕祭

夏の風物詩、七夕。街は華やかな装飾で彩られ、いたるところで風情あふれる祭りや星にちなんだイベントが行われます。落穂寮でも七夕祭が行われました。新人職員が中心になり、オリジナルの織姫と彦星の演劇とダンスをしました。どのようにすれば利用者さんに楽しんで頂けるか試行錯誤しながら意見を出し合い制作しました。勤務後の練習や、小道具を作ったりと大変な事もありましたが、この事を通して職員同士の絆が深まりました。本番ではステージの周りに笑い声があふれ、最後に利用者さんと踊るダンスでも皆がノリノリで踊ってくださったので職員共々楽しいひとときになりました。そして、利用者さんに楽しんで頂けたという感動は新人職員にとって大きな財産になり、これからの支援に繋がっていくことでしょう。毎日の生活を支援する中で慣れがでてきてしまうと利用者さんの笑顔や喜びを意識する気持ちが薄れてしまうこともあります。日々の業務に追われ、食事・排泄・入浴・歩行等といった生活支援だけに重点を置き動いてしまう事も無いとは言えません。こういった生活支援も大切なことではありますが、このような行事があることでいつもと違う角度から利用者さんと関わる事ができ、改めて利用者さんの笑顔が見られる事も支援者としての大きな喜びの一つであることを再認識することができました。心のこもった支援をすることで生活の支えになるだけでなく、心の支えにもなれるような支援者になりたいと職員一同、原点回帰できた七夕祭りでした！

新人紹介

皆様はじめまして。今年の6月から女子棟で働かせていただいている鳥居（とりい）　香里（かおり）と申します。上の記事にもあります七夕祭りでは女番長と鳥居姫役をやらせていただきました。

以前から障がいを持っておられる方と関わる機会が多く、介護の世界に興味を持っておりました。

中学・高校時代に何度か障がいを持つ子供たちと関わるボランティアを経験していますが、特に何か資格を持っている訳ではないので手探り状態での仕事になります。早く慣れたいという焦りの気持ちもありますが、まずは利用者さんとの関わりを増やし、しっかり関係を作って行きたいと思っております。と、入ったばかりの頃はこのように思っていたのに約半年経った今では、良い意味でも悪い意味でも、慣れが出始めているように感じています。

半年という一つの境目に、初心に戻り、次は利用者さんと関わりを増やしていくだけではなく、利用者さんを心身共に支えていける職員になれるように頑張って行こうと思います。

まだまだご迷惑をおかけする毎日ですが、これからもよろしくお願い致します。

地蔵盆

今年も毎年恒例の地蔵盆を行いました。新しい建物、多目的学習棟が造られることになり、今まで旧事務所前にあったお地蔵様をグラウンドに移して、地蔵盆を行いました。

天気も良く、照りつける太陽の下、利用者の皆さんは無病息災を願い、一人ずつ順番に「まんまんちゃん」と手を合わせておられました。

お地蔵様がグラウンドに移されたことで、お地蔵様が落穂の建物を見渡すような位置になり、利用者の皆さんを見守っていってくれることでしょう。今年もみんな健康に過ごせますように…

今年も健康でありますように
『まんまんちゃん』

お地蔵様の移動～

納涼祭

地蔵盆を終え、夕食からは納涼祭。天気があいにくの雨となり、今年は食堂と中庭にて納涼祭を行いました。おにぎり、フランクフルト、ジュースなど毎年定番のメニューに加え、今年はお好み焼きの新メニューが登場し、皆さん長い列を作っておられました。味も大満足だったようでおかわりもたくさん召し上がられ、とても良い笑顔を見ることが出来ました。

そして夕食が終わる頃には雨が上がり、盆踊りこそ出来なかったものの、打ち上げ花火を上げることに。みんな外に出て、花火に見惚れておられました。来年は良い天気の中行えたらいいですね。

夜は涼みつつ
花火鑑賞

おいしい食事を
みんなでいただきました♪

男子棟 飯盒炊爨

昨年同様に希望が丘運動公園にて飯盒炊爨をしています。

当日はお天気も晴れだったのでとても気持ち良く利用者さん達もボールで野球やサッカー、散策などをとても楽しそうにしておられました。

昼食は焼肉と焼野菜とご飯を食べていただいてます。

いつもとは違い外で食べているのでおいしさが増しているのかとてもおいしそうにいっぱい食べておられ、満足そうにされていました。

また来年お天気に恵まれてこういった形で外で飯盒炊爨が出来たら嬉しいです。

女子棟 飯盒炊爨

今年も暑い夏となりましたが、毎年恒例、女子棟の飯盒炊爨が行われました。今年も寮内での開催となりました。利用者の皆さんと職員は、まずまずの天気の下、プールへ。キャッキャ、ワハハと水遊び。夏を満喫してもらいました。さてさて、一部の不運な？職員は暑い中、日陰もないグラウンドで火の番です。ブロックで用意したカマの前で、上から前からの熱に耐え、昼食の準備です。今回のメニューはカレーライス。もちろんご飯も飯盒で炊きます。女子棟でカレーライスを作ると、かなりの高確率で水分多すぎ、残念なシャバシャバカレーになってしまうのですが、今年はなかなかの出来栄え。久々の大成功です。ちょっと時間がかかり、いつもより遅い昼食になってしまいましたがグラウンドに用意されたテーブルでおいしくいただきました。暑い中でも皆さんの食欲は衰えることなくおかわりもいっぱいされています。夏バテ防止は、まずしっかり食べること！皆さんが今年の夏を元気に乗り切ったのはこの食欲のおかげでしょう。また来年も今年同様、いっぱい遊んでいっぱい食べましょう！

仲良きことは美しき哉

夏のカレーは最高！

男子棟 親子旅行

秋風のさわやかな日に甲南町にある宮乃温泉にて、男子棟親子旅行を行わせて頂きました。

ご利用者様は、ご家族様や職員とともに秋の気配を見せる風景や触れ合いをバスの中でとても楽しまれていました。

宮乃温泉に到着してからは、慣れない場所に戸惑いながらも、次々と出される豪華な食事をご家族様や職員とともに楽しんでおられました。

ご家族様と過ごされるご利用者様の笑顔は、なかなか日々の生活の中では見られないもので職員はその笑顔を微笑ましく感じると同時に毎日の生活でどのような支援でその笑顔を見せて頂けるのかの課題として重く受け止めさせられました。

食事の後は、ご家族様と一緒に時間を過ごす方や外に散歩に出られる方など、それぞれにゆったりとした時間を過ごしていただけたのではないかと思います。

最後になりましたが、ご多忙の中、今回の親子旅行にご参加頂きましたご家族様と無事に親子旅行を終えることができましたことにお礼申し上げます。

女子棟 親子旅行in湯元館

待ちに待った大好きなご家族とのバス旅行！お洒落をして出発です。

天気に恵まれ、『秋晴れ』と言う言葉が良く似合う一日となった今年の親子旅行の行き先は、大津市にある『湯元館』。

バスの中では、密かに計画されていた職員全員の自己紹介が行われ、照れあり・笑いありのとても和やかなムードが流れていました。

湯元館へ到着し会場へ入ると、目の前に広がる会席料理に心躍らせ、さっそく席に着く皆さん。決して少なくはない量でしたが、あっという間に完食される方が続出でした。中には隣の方の料理に心を奪われ、思わず手がのびてしまう方も…。締めくくりのデザートも食べて、周囲にはご満悦の表情が溢れていました。

お腹も満たされ、ご家族との時間を楽しまれる方。お腹がいっぱいで横になり眠そうな方、少しの時間でしたが皆さん思い思いの時間を過ごされました。帰りのバスも賑やかな声で満ちており、普段とは違った利用者さんの一面が多く見られました。

よく食べて・よく笑い、身も心もたっぷりエネルギー補充できたところで、今年の女子棟親子旅行は幕を閉じています。

また来年、大好きな人たちと共に美味しい料理を囲んで楽しく過ごしましょう！

多目的学習棟 お披露目音楽会♪

去る10月19日に、多目的学習棟完成を祝って、地域の皆さまにぜひ足を運んでいただく機会を持とうとの事でお披露目音楽会を開催しました。

音楽会を始める前に、新棟の建設に携わって頂いた井島建築設計事務所様と大宝柊木株式会社様に感謝状の贈呈式を行ないました。

午前の部は、ふれあい交流会等でお世話になっている石部中学校の吹奏楽部の皆さんに素敵な演奏をして頂きました。皆がノリノリになれる曲を選曲されており、生で聴く迫力に圧倒されました。

午後の部は、毎年3月に伊賀にある作業所さんから来ていただいている、小池千鶴子とリトルギャルズの皆さんに披露していただきました。小池さんは美声の持ち主で、聞き惚れてしまうほど、癒しのひとときでした。

地域の方々、実習生などをはじめ、多数の方にご来寮いただき、ありがとうございました。

また地域の集まりなどに利用していただければと思います。

ご来寮をお待ちしております。

▼（左から）山下理事長　山口氏　木田氏　岡田氏

▲石部中吹奏楽部の皆さん

▲小池千鶴子とリトルギャルズの皆さん

初任者研修2013

10月8日に今年も特別支援学校の初任者研修の為、11名もの新規採用教員の方が落穂寮の利用者さんと交流に来られました。

毎年、学習意欲が高く、1日と非常に短い関わりの中ででも利用者さんの想いを汲みとり、ニーズを捉える観察力を持っておられ、受け入れる事業所側も大変勉強になっています。

外部の方が来られ、生活の流れまで変わってしまうと不安定になられる方がいる落穂寮では、日常の生活を共にしていただいています。日常の中でも当り前な事こそ大切に考えていく必要があり、入所施設だからこそ、その支援の大切さに気付いていただくことが出来ると思っています。

今年も来ていただいてありがとうございました。

▲研修に来られた若き精鋭たち

泉

多目的学習棟改築工事にご尽力いただいた皆様、また、お披露目音楽会では沢山の御厚志ならびにご多忙の中、多くの方々にご参加いただきありがとうございました。

そして、利用者さんにもありがとうの気持ちを伝えたいと思います。

工事中はグラウンドや体育館を使えないことで、思うように活動できなかったこともありました。また、以前からの見慣れた馴染みある風景が変わっていくことに、不安を感じた方もおれれたのではないでしょうか。色々と我慢してもらうことがあったのではないかと思います。

今回の改築工事で管理棟が取り壊されたことで、石部に移転してきた時の建築物は全て消えてしまったことになります。これも落穂寮の歴史の中の一つの節目なのでしょう。しかし、主役は建物ではなく、ここで生活する方々であることには変わりはありません。そのことを再認識しつつ新しい多目的学習棟には良き〝脇役〟として活躍してもらいたいと思います。

ご協力ありがとうございます

社会福祉法人椎の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。今後も変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

平成二十五年十一月現在（敬称略）

寄付金　株式会社シガ技研

物品の寄付　株式会社信基金属

原田隆和

小林正明

ありがとうございました。